

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
78

振興協議会だより

【発行日】令和8年4月28日
【発行】苗場山麓ジオパーク推進室
【お問い合わせ】025-765-1600



苗場山麓ジオパーク事務局 新職員挨拶



太田 昌
ジオパーク推進室長

皆様はじめまして。4月1日付けでジオパーク推進室長を拝命いたしました太田昌（おおたまさる）と申します。

私が初めてジオパークと関わらせていただきましたのは、認定前に佐藤ジオパーク推進室班長と隠岐ジオパーク全国大会に参加させて頂いたのが最初でございます。その際、糸魚川ジオパークの市長様から貴重なお話を頂戴したのを覚えております。令和6年、「苗場山麓ジオパーク」は10周年を迎えることができ、関係者各位のご尽力に感謝申し上げる次第であります。

さて、令和8年度は再審査の年となります。これまで積み上げてきたものを大切にしつつ、より活発な活動の展開を検討してまいります。

終わりにジオ・エコ・カルチャーを次世代に繋ぐべく取組を進めて参りたいと思っております。何卒、よろしくお願いいたします。



喜多 孝行
ジオパーク専門員

今年度よりジオパーク専門員として週2回程度、苗場山麓ジオパークのお仲間に入れていただくことになった喜多孝行（きたたかゆき）です。

45年ほど前に大学時の卒論で「苗場山の地質」をテーマに津南町、栄村を歩かせていただきました。

日本海が形成され、日本列島が大陸の縁辺部からほぼ現在の位置にきて以降、津南町・栄村地域はプレート運動や様々な火山活動、噴出物による「火」と「水」により信濃川、中津川、河岸段丘、風光明媚な火山地形を形成し、水と生命に恵まれた豊かな地域です。皆さんとともに豊かさを発見し楽しみたいと思います。



田中 和徳
ジオパーク推進員

今年度よりジオパーク推進員としてお手伝いさせていただく田中和徳（たなかかずのり）と申します。

新潟県立歴史博物館勤務時から、過去1,500年間の越後平野西部の形成について、考古学や歴史学、地質学、地形学、民俗学等の成果から明らかにしたいと考えています。10世紀以降の越後平野での遺跡廃絶の要因の一つとして、信濃川・千曲川流域の断層活動やそれによる河道閉塞と決壊が関係していると考えています。

私は、長野県須坂市でりんごとあんずを栽培しており、毎週、津南町と栄村を通過しています。信濃川・千曲川流域の崩壊地形や断層活動により変位した大地を眺めながら、ジオパークの活動と結びつけられたらと考えています。力不足ではありますが、振興協議会の業務に少しでも貢献できたらと思います。

令和8年度も苗場山麓ジオパークは、様々な事業活動を予定しています。その一例として、教育活動では各学校からの要請に応じて出前授業の講師やジオサイト巡検、環境学習の実施、ジオパーク研究コンクールの開催などに取り組みます。また、地域内外のみなさんが参加できる講座やアクティビティ、フォトコンテストの開催なども実施いたします。

今秋、実施される日本ジオパーク委員会による現地調査を見据えて、事務局一同、準備に取り組んでまいります。

皆様、よろしくお願いいたします。苗場山麓ジオパーク・ホームページはこちら→ <https://naeba-geo.org>





さくらウォークへ参加しました

4月12日(日)、トライアルイベントとしてさくらウォークが開催されました。テーマは「中津の流れを感じ、季節の尊さを感じ、ヒトと人のつながりを創るひと時を過ごしましょう!」として、さくらの咲いているこの時期ならではのお花見を兼ねたウォーキングが実施され、48名の皆さんが参加し、楽しまれていました。

コースは見玉をスタートして、太田新田、反里口、秋成、中深見、船山、船山新田、ゴールの大割野まで歩きました。途中、「津南町埋蔵文化財センター“うもれあ”」にて一部解散し、そこでゴールされた参加者の中には、うもれあの施設を見学された方もいらっしゃいました。

歩いている中で、ジオパーク専門員が自然(エコ)について解説を行いました。道中に見かけるさくらの品種や特徴、開花時期のほか、色々な草花についてもお話してくださいました。また、「池田の池」と呼ばれている場所では、周辺の岩が堆積した中に冷たい風の出る風穴があることや、流れ込む湧水のため水温が低く浮島ができること、渡り鳥であるカモが渡りをしなくなっている傾向や、大きなアオダイショウ、モリアオガエルなどが棲んでいることを教えてくださいました。

来年も開催予定とのことなので、地域を学びながら自然に親しみ、健康効果も期待できる「さくらウォーク」にぜひ参加してみたいはいかがでしょうか。



元気に出発!



さくらの下で記念撮影



池田の池(6月頃)



新潟圏域ジオパークガイド意見交換会開催

3月17、18日の二日間にわたり新潟圏域ジオパークガイド意見交換会を開催しました。会場は、長野県栄村の「中条温泉トマトの国」をお借りして研修を行いました。研修テーマ「環境への負荷を最小限にして楽しむ活動・Leave No Trace (LNT)」として、今回も株式会社信州アウトドアプロジェクト(SOUP)の吉田理史氏にご協力いただき、アウトドア活動における環境負荷を最小限で楽しむコツについて屋内外で学びました。

今回、苗場山麓ジオパークでの地域開催は4回目となりました。開催方針として、①冬季(雪の残る時期)における「LNT」を意識した野外での実習(ワークショップ)を行い、LNTの発信と普及を図ること、②圏内の3地域(糸魚川・佐渡・苗場山麓)のジオパークガイドが一堂に会し、意見や情報を交換することで他のジオパークガイドの近年の活動や課題、悩み等の共有を図ること、③雪のふる里の風情を体感する場を設定することでした。

1日目の野外実習においては、昨年と比較して積雪がやや少なく雪の有無が心配されましたが、1m前後の残雪があり、雪上ワークショップを無事に実施することができました。内容は、各グループごとにスノーシューで小高い丘の上まで登り、吉田氏から出された課題に全員で取り組み、実践したことや意見の発表を行いました。コーヒータيمの一連の行動(場所づくり、お湯を沸かす、お菓子を食べる、場所をできるだけ元の状態に戻すなど)からもLNTの理念について学ぶことができました。当日は天候に恵まれ、丘の上から中条川の崩壊地の観察をし、鳥甲山、苗場山、毛無山なども眺望できました。また、糸魚川ジオパークと佐渡ジオパークの参加者からは、「苗場山麓にはまだまだたくさんの雪がありますね」と驚きの声もありました。

「雪のふる里」をうたう苗場山麓ジオパークとして、冬季にこの事業を実施する意図がご理解いただけたのではないかと思います。

参加者の皆さんがそれぞれ本音で意見を交わし、3ジオパークの情報共有を行うことができた有意義な2日間となりました。



雪上ワークショップ



研修2日目の様子



修了後に記念撮影

認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

吉野 敦子さん



すてきなガイド仲間との出会い（ガイドナンバー 82 吉野 敦子さん）

「ここが好きだよジオパーク」の原稿依頼をいただいて「さて、どこのサイトを紹介しようかな」とバックナンバーの振興協議会だよりをめぐってみると、あらためてひとつひとつのジオサイトが、かけがえのない宝物だと再認識しました。その成り立ち、人々の暮らし、自然との共生を再確認するために五感をとおして学ぶ場所がジオパークなのです。

全国にジオパークは48地域あります。そして、そのジオパーク活動には大勢のジオガイドが携わっています。苗場山麓ジオパークにも119人のジオガイドがいます。熱く語り、勉強熱心で優しく、そんな苗場山麓ジオパークガイドの皆さんが私は大好きです。

2023年、佐渡ジオパーク認定10周年の記念事業の中で、ジオパークガイドの意見交換会、交流会、研修会などに参加させていただいた時に、パワーあふれるガイドの皆さんの中で「佐渡がとにかく好きなのよ。だからもっと皆さんに佐渡のいいところを伝えたい。ガイドが楽しくてしかたないの」と話す方の力強い言葉が印象的でした。また、今年の2月には第13回JGN中部ブロック立山黒部大会に参加させていただきました。その会場で、91歳の現役でガイドをされている女性と話す機会をいただきました。「ガイドは、お客様に分かりやすく丁寧に伝えるのも大切。自分が楽しむのも大切よ」と…。

最近、私は、お客様との出会い、会話、ガイド仲間のみなさんとの意見交換や、サイトの多様性を深く知る事が楽しみのひとつです。

「ジオガイドって難しいのでしょ？」と聞かれるのですが、そんな事はありません。少しの好奇心があれば！

苗場山麓ジオパークガイド認定を受けて、私たちガイドとすばらしい苗場山麓ジオパークの魅力を伝えましょう。



第7回苗場山麓ジオパークガイド認定証授与式
後列左から3人目が吉野さん



中部ブロック立山黒部大会・ガイド実習



中部ブロック立山黒部大会に参加した皆さん

お知らせ

※大勢のご参加お待ちしております!!

5月31日(日) 9:00～12:00 苗場山麓ぶらり旅・津原～源内山～堂平 集合場所：農と縄文の体験実習館なじょもん
6月6日(土) 9:00～12:00 歩いて楽しむツアー・うもれあ～石落し～見玉不動尊 集合場所：埋蔵文化財センターうもれあ



突撃しよう！となりのジオ便り～三好ジオパークからこんにちは～

徳島県西部に位置する三好ジオパークは、三好市と東みよし町の全域をエリアとし、険しい渓谷、山の斜面に点在する集落、そして雄大な吉野川などの特徴的な景観が魅力です。この三好地域ならではの景観は、3つの「動く大地」によって形成されました。

1. 地すべり：人々の生活の場を形成

三好地域の山間部に点在する「傾斜地の集落」は、周囲の険しい斜面とは異なり、過去から現在までに発生した地すべりによって形成された、比較的緩やかな地形の上に築かれています。この「動く大地」が、傾斜地の集落という人々の生活の場を生み出してきました。

2. 河川の浸食：壮大な渓谷の創造

四国を代表する吉野川とその支流である祖谷川は、大歩危・小歩危峡や祖谷溪に代表される深く険しい渓谷を形成しています。これらの渓谷は、砂質片岩やレキ質片岩といった硬い岩石が、水量豊かな河川の強い浸食作用によって削り取られることで生み出されました。

3. 中央構造線の活動：吉野川の流路と文化への影響

三好ジオパークエリアを東西に横断する中央構造線は、活動のたびにその北側の土地を右に横ずれさせながら隆起させ、讃岐山脈を誕生させました。この山脈の誕生により、元々北側（現在の香川県側）へ流れていた吉野川は、その流れを遮られ、カクン 90 度流路を東へと変えました。この劇的な流路変更は、徳島県と香川県の文化に大きな影響を及ぼしています。



カルチュラルサイト：落合集落（傾斜地集落）



大歩危峡：背斜構造

○景観維持の目標と課題

三好ジオパークの目標は、これら「動く大地」によって形成された三好地域らしい景観を守り、次世代へと継承していくことです。景観は、大地だけでなく、人々の営みや生態系など複合的な要素で成り立ち、その維持には地域住民の存在が不可欠です。しかし、現在の三好地域では、人口減少に加え、地域資源の価値や繋がりへの理解不足から、景観を維持・継承する担い手が減少しています。

○三好ジオパークの取り組み

三好ジオパークではこの課題に対し、人口減少そのものは避けられないと認識しつつも、ジオパークプログラムを通じて地域資源の価値を深く広く理解する機会を提供します。これにより、地域全体で景観の魅力を発見し、その維持について議論を深め、共に行動し、そして直接的・間接的に景観の維持・継承に関わる人々を増やして、三好地域らしい景観を守り継承していくことを目指しています。



吉野川の流路変更



令和8年度 苗場山麓ジオパーク学術研究奨励事業 採択者決定

苗場山麓ジオパークの潜在的資源の調査研究、保全活動など学術的な立場の専門家から指導・助言をいただくことを目的とする苗場山麓ジオパーク学術指導委員会が開催されました。その中で、この地域を対象に調査研究を希望する申請者に対して、学術指導委員5名による評価結果をもとに厳正なる選考の結果、令和8年度の助成対象者が決定しました。

調査期間を経て、調査内容の報告としてまとめたものが「苗場山麓ジオパーク研究集録第9号」に掲載される予定です。

現在、第1号から第7号まで発刊しております。また、第8号は5月中旬に刊行予定です。いずれも1冊1,000円（税込）でお求めいただけます。

【販売に関するお問い合わせ】 農と縄文の体験実習館なじもん 電話 025-765-5511

氏名	所属	研究の名称
植木 岳雪	成蹊大学 国際共創学部 環境サステナビリティ学	栄村塩尻における河川争奪の年代：栄村に新たなジオサイトを設定するために
遠藤 颯	東京都立大学 動物系統分類学研究室	生態系の隠れた主役“ミミズ”の多様性解明とそれによる希少昆虫の生息適地地評価
田中 亮	長野県塩尻市立桔梗小学校	苗場山麓ジオパーク地域における特別支援教育と住み続けられる地域づくりに関する研究-地域の自然環境と支援関係に着目して-
諸星 良一	株式会社航空研究所 文化財調査課	信濃川中流域における晩氷期の狩猟採集民の適応と進化について②
阿部 稜平	千葉大学大学院 融合理工学府 地球環境科学	苗場山の残雪に現れる彩雪現象を構成する雪氷藻類群集構造の決定要因に関する研究
阿部 智己	信州大学大学院 総合理工学研究科 理学専攻生物学ユニット	鳥甲山麓の廃隧道をめぐらするコウモリ類の越冬生態および森林内のコウモリ相の解明